

1. 環境教育の目標

藍島の自然環境や環境問題について関心や知識をもち、環境との関わりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境に配慮した行動のできる技能や思考力、判断力を身につけ、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境づくりに主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成する。

2. 環境教育の指導の重点

- 本市が環境未来都市として誇れる資源（ひと・もの・文化・自然）を「ふるさと力」として捉え、「北九州市環境教育プログラム」を活用しながら環境教育を推進する。
- 次代を担う子ども達が、ふるさとに対する理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着・誇り（シビックプライド）を醸成するよう指導の充実を図る。

3. 環境教育についての構想

学習指導要領に基づく学習において

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び、特別活動それぞれの特質等に応じ、全ての教育活動を通して行う。

教科の特質を生かした環境教育

- 各教科の指導の中に環境保全に関する指導項目を明確にし、指導する。
- 社会科、理科、家庭科、生活科、体育科といった環境教育に直接関わる内容をもつ教科だけでなく、他の教科においても言語活動や数理的、音楽的、造形的な活動を通して、環境に対する豊かな感受性や見識をもつ子どもを育てる。



環境や自然と人間との関わり、環境問題と社会経済システムの在り方や生活様式との関わりなどについて理解を深めさせる。

学校の特性をいかした取組において

子どもの実態に応じ藍島の特性を生かし、体験を通した環境教育の取組を総合的な学習の時間や生活科等を活用して行う。

体験を通した環境教育

【生物多様性】

- 本市及び藍島の自然の特性を生かした活動
- ・全学年 河内小学校交歓会
- ・5, 6年 ひびき灘水質検査
- ・3年 総合「藍島マリンワールドをつくろう」
- ・全学年 総合・生活科「藍島の魚を釣り、干物を作って食べよう」

【低炭素・循環型社会】

- 本市の環境関連施設を活用した活動
- ・3年生社会科見学において、イノベーションギャラリー見学
- ゴミの排出を抑制する3R活動
- ・全校児童と年長者が協力して島内清掃活動
- ・全学年 島内海岸清掃活動



環境の保全やよりよい環境の創造のため主体的に取り組む態度や能力を育成する。

4. 環境教育の様子

当校は、「ふるさと藍島を愛し、豊かな心とたくましく生きる力をもった子どもの育成」を学校理念として、E S Dを藍島の自然を愛し、藍島に生きる人々とのつながって学習する場と捉え、E S Dの実践を通して、他者とのコミュニケーションの力、つながりを尊重する力の育成を目標とした。

① 環境に係わる活動

藍島の環境をよりよいものにするために自分たちの力でできることは何かを考え、学期に1回（年3回）の島内清掃、年2回の海岸清掃に取り組んだ。海岸清掃では、集めたごみを環境センターまで運ぶ（漁船で運んだ）ことを通して、社会科の学習に結びつけるようにした。また、自分たちの集めたごみが実際に漁船で運ばれている様子を見て、次の清掃活動に対する意欲を高めていくことができた。



島内海岸清掃の様子



島内ふれあい清掃活動の様子

生物多様性に係わる学習

エコプラン研究所の溝手先生を講師として、藍島の動植物についての学習を行った。1回目は、6月に実施し高学年は、投網で磯辺の生物を捕まえて観察を行った。低学年は、島の珍しい植物を見て回った。2回目は11月に実施し、教室で「藍島の植物の種の不思議な性質」について学習した。溝手先生は、事前に島で動植物の調査を行い、その結果発見したことを授業に活用していただけるので、情報が最新のものになり、とても興味深い内容である。藍島には、多くの希少生物が生息している。そのことを学習することにより、藍島への愛着を深め、さらには環境学習にもつながっていくと考えられる。次年度は、総合的な学習の時間の単元構成を見直し、児童が主体的によりよい藍島にしていくために何をしていけばよいのか考え、実践していけるようにしていく。



講師の先生から、藍島の植物の特性を教えていただく